一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**External irradiation of epithelial skin cancer**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	ＢＣＣＣＱ１１－７	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID	2394605	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	19	
	号	2	
	ページ	235-42	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1990 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lovett RD	ワシントン大学 Mallinckrodt 放射線研究所
	その他著者 1	Perez CA	同上
	その他著者 2	Shapiro SJ	同上
	その他著者 3	Garcia DM	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	基底細胞癌と扁平上皮癌の放射線治療成績を解析する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	ワシントン大学 Mallinckrodt 放射線研究所	
	対象者	基底細胞癌 242 例、扁平上皮癌 92 例、その他 5 例 リンパ節転移：基底細胞癌 1/242、扁平上皮癌 14/92 遠隔転移：1 例 部位：基底細胞癌（頭頸部 226 例、四肢・体幹部 16） 扁平上皮癌（頭頸部 84 例、四肢・体幹部 13） （１９６６．１－１９８６．１２）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(15)	
	介入（要因曝露）	表在Ｘ線照射：187 例、電子線照射：57 例、超高圧Ｘ線照射：15 例 複合：80 例	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	局所制御に与える予後因子	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	4	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	6		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	7		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	8		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	9		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	10		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	主な結果	局所制御率：86%（基底細胞癌 91%、扁平上皮癌 75%） 大きさ別局所制御 <1 cm　基底細胞癌 97%、扁平上皮癌 91% 1-5 cm　基底細胞癌 87%、扁平上皮癌 76% >5 cm　基底細胞癌 87%、扁平上皮癌 56% 線質別制御は腫瘍の大きさ・厚みに影響している 整容性：良好 92% <1 cm (98%)、1-5 cm (88%)、>5 cm(82%) 有害事象：5.5%　<1 cm (0.9%), 1-5 cm (7.1%)、>5 cm(13.6%)	
	結論	放射線治療は皮膚癌に有用である。局所制御、整容性、有害事象は、腫瘍径に依存するため早期の治療が勧められる。局所制御と整容性は放射線治療技術に依存するため注意深い放射線治療が必要。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間　直人
	レビューワーコメント	分母が 10 例以下の解析で百分率を出すのはいただけない解析であろう。 レベル ＩＶ

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Radiotherapy for epithelial skin cancer**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （1）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	ＢＣＣＣＱ１１－６	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ Ⅴ ）	
	Pubmed ID	11697321	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	51	
	号	3	
	ページ	748-55	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （1）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （2）	
	発行年月	2001 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Locke J	ワシントン大学 Mallinckrodt 放射線研究所
	その他著者 1	Karimpour S	同上
	その他著者 2	Young G	同上
	その他著者 3	Lockett MA	同上
	その他著者 4	Perez CA	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	上皮性皮膚癌の放射線治療後の治療成績、再発形式、整容性を遡及的に検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	ワシントン大学 Mallinckrodt 放射線研究所	
	対象者	上皮性皮膚癌：468 例 531 部位（初回治療：364 部位、再発治療：167 部位） 基底細胞癌：389 部位、扁平上皮癌：142 部位 部位：基底細胞癌（頭頸部 361 部位、体幹部 28 部位） 扁平上皮癌（頭頸部 118 部位、体幹部 24 部位） T 病期：基底細胞癌（T1；258 例、T2；68、T3；19、T4；15） 扁平上皮癌（T1；62 例、T2；37、T3；15、T4；16）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （3）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （15）	
	介入（要因曝露）	電子線、表在Ｘ線、コバルト、超高圧Ｘ線を腫瘍の進展度から主治医が判断し選択。 電子線 19%、表在Ｘ線 60%、電子線＋表在Ｘ線 20%、超高圧Ｘ線 <2% 範囲：腫瘍として認識できる範囲＋1cm マージン 一回線量：<2 Gy／回～>4 Gy／回（詳細の記載なし） 総線量：<40 Gy～>60 Gy（詳細の記載なし）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	2	局所制御率に与える予後因子	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	3	整容性	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	4	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）

	主な結果	全体の局所制御率：89%（初回治療例：93%、再発例：80%） 基底細胞癌の局所制御率：92% 扁平上皮癌の局所制御率：80% 一回線量（2.01Gy 以上）、腫瘍径、組織型（基底細胞癌：扁平上皮癌）が局所制御率に影響を与える独立した因子 線質および分割回数は局所制御率に影響を与えていない 92%が整容性で良好 5.8%で有害事象（結合組織の壊死）
	結論	放射線治療は皮膚癌に良好な局所制御と整容性が得られ、有害事象は少なかった。再発病巣の制御は不良であるが、早期の再発であれば制御可能であり、積極的に放射線治療を行うべき。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	後ろ向き研究であり、線量、分割、総線量、線質などを頻回に解析しており、多重解析の可能性が高い。結果の解釈には慎重を要する。 レベル Ⅳ

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Treatment of carcinoma of the skin with bone and/or cartilage involvement.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ11-15	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	3358361	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Clin Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	11	
	号		
	ページ	110-3	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1988 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Petrovich Z	南カリフォルニア大学
	その他著者 1	Kuisk H	同上
	その他著者 2	Langholz B	同上
	その他著者 3	Luxton G	同上
	その他著者 4	Petrovich M	同上
	その他著者 5	Chak L	同上
	その他著者 6	Rice D	同上
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	骨や軟骨に浸潤した局所進行期の皮膚癌の治療成績を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	南カリフォルニア大学	
	対象者	１９５６－１９７８年に頭頸部癌で治療された 23 例（骨や軟骨に浸潤した局所進行期の皮膚癌） 9 例は既治療歴あり、残りはなし 基底細胞癌 14 例、扁平上皮癌 6 例 部位：鼻 8 例、耳介：7 例、眼瞼：5 例 骨浸潤例：7 例、軟骨浸潤例：17 例 5 cm 以上の腫瘍：13 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(15)	
	介入（要因曝露）	放射線療法：14 例、手術＋放射線療法：9 例 放射線療法 平均一回線量：3.2 Gy、総線量：35-70 Gy（平均 55 Gy）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	5 年局所制御率：80% 14 例の基底細胞癌は全て制御された。 9 例の扁平上皮癌のうち、4 例は再発した。	
	結論	骨や軟骨に浸潤した局所進行期の皮膚癌（基底細胞癌、扁平上皮癌）において放射線療法は有用な治療オプションとなりうる。重篤な毒性も見られなかった。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間　直人
	レビューワーコメント	症例数は少ないが骨浸潤や軟骨浸潤をきたした進行期に対する放射線療法を施行した貴重なデータ。 レベル Ⅳ

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Long-term recurrence rates in previously untreated (primary) basal cell carcinoma: implications for patient follow-up**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ11-2	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	2646336	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号	3	
	ページ	315-28	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1989 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rowe DE	Texas Health Science Center
	その他著者 1	Carroll RJ	Texas A and M 大学
	その他著者 2	Day CL Jr	Texas Health Science Center
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	各種治療法で治療された基底細胞癌の適切な経過観察期間を検討する
	データソース	記載なし
	研究の選択	以下の報告は除外 1) 20 例未満の報告 2) 扁平上皮癌との区別をしていない解析の報告 3) 通常の 3 倍の再発率を示した cryosurgery の報告（手技の習熟度が低い） 4) 断端陽性例で適切な処置が施されていない報告例 など
	データ抽出	摘出術 37 報告、electrodesiccation 21 報告、放射線療法 31 報告、cryotherapy 14 報告、Mohs 手術 3 報告
	主な結果	再発率 経過観察 5 年未満 / 5 年以上 手術 2.8% / 10.1 Electrodesiccation 4.7 / 7.7 放射線療法 5.3 / 8.7 Cryotherapy 3.7 / 7.5 Mohs 手術以外の療法 4.2 / 8.7 Mohs 手術 1.4 / 1.0 再発時期：3 年までに再発(66%)、6-10 年に再発(18%)
	結論	基底細胞癌では 5 年での成績を規準に考えるべきである
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討されておりそれに準ずるものとして評価した。 レベル Ⅰ

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Recurrence rates of treated basal cell carcinomas. Part 1: Overview**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	ＢＣＣＣＱ１１－３	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1890243	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	17	
	号	9	
	ページ	713-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1991 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman MK	ニューヨーク大学
	その他著者 1	Kopf AW	同上
	その他著者 2	Grin CM	同上
	その他著者 3	Bart RS	同上
	その他著者 4	Levenstein MJ	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌の再発率を解析する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	ニューヨーク大学	
	対象者	組織学的診断がついている基底細胞癌 5,755 例(1955-82 年) 前治療なし：66.4%、前治療あり：33.6% 部位：頭頸部 81%、体幹部 13%、四肢 6%	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)	
	介入（要因曝露）	Electrodesiccation 2,314 例、手術 588 例、放射線療法 862 例 放射線療法の詳細の記載なし	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	予後因子	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	5 年局所再発率：10.6%（初期治療例）、15.4%（再発例） 5 年局所再発率(strict)：Electrodesiccation10.4%)、切除術(3.6%)、放射線療法（6.0%） 5 年局所再発率(生命表による補正)：Electrodesiccation（17.3%)、切除術(6.8%)、放射線療法（10.0%）	
	結論	基底細胞癌の成績は既治療の有無別に算出すべきであり、生命表を用いた補正は局所再発率の算出に適している。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間　直人
	レビューワーコメント	放射線療法の詳細に関する記載なし。 非常に多くの症例を解析した報告。 レベル IV

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Recurrence rates of treated basal cell carcinomas. Part 4: X-ray therapy**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ11-8	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID	1624628	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	7	
	ページ	549-54	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1992 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman MK	ニューヨーク大学
	その他著者 1	Kopf AW	同上
	その他著者 2	Gladstein AH	同上
	その他著者 3	Bart RS	同上
	その他著者 4	Grin CM	同上
	その他著者 5	Levenstein MJ	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌で放射線治療を行った症例の治療成績を解析する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	ニューヨーク大学皮膚癌データベース	
	対象者	1073 例（初回治療例：862 例、再発例：211 例） 初回治療例 1-9 mm：376 例、>10 mm：477 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別ｾｻﾞ　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別ｾｻﾞ　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別ｾｻﾞ　(14)	
	介入（要因曝露）	腫瘍の深さによって照射技術を変更している（Table 2） 一回線量：6.8 Gy、分割 5 回、総線量 34 Gy	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	2	予後因子	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	5 年の再発率：7.4% 局所再発に与える予後因子：腫瘍径のみ(p=0.003)（年齢、部位、治療時期は影響していない） 5 年局所再発率：4.4%(腫瘍径<1 cm) vs. 9.5%(>1 cm) 整容性：良好(63%)例は手術より低い(84%)	
	結論	初回治療例および再発の基底細胞癌に対し放射線治療は有用	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間　直人
	レビューワーコメント	"standardized" X-ray therapy とあるが、現在使用していない機種を使用し、一回線量も高い。整容性が手術に比べ低いのはこのためではないか。 レベル ⅠV

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Surgical excision vs Mohs' micrographic surgery for basal-cell carcinoma of the face: randomised controlled trial**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	ＢＣＣＣＱ１１－１１	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅱ　）	
	Pubmed ID	15541449	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet	
	雑誌 ID		
	巻	364	
	号	9447	
	ページ	1766-72	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2004 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Smeets NW	Maastricht 大学病院
	その他著者 1	Krekels GA	Catharina 病院
	その他著者 2	Ostertag JU	Maastricht 大学病院
	その他著者 3	Essers BA	Maastricht 大学病院
	その他著者 4	Dirksen CD	Maastricht 大学病院
	その他著者 5	Nieman FH	Maastricht 大学病院
	その他著者 6	Neumann HA	Erasmus MC Rotterdam
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	顔面に発生した基底細胞癌において、通常の切除術と Mohs の手術のどちらが優れているかを比較した	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Maastricht 大学病院	
	対象者	374 例（408 部位）の初回治療例と、191 例（204 部位）の再発症例 腫瘍径 1 cm 以上または、組織学的悪性度の高いもの 初回治療例 顔面の H ゾーンから発生：89～96% 病理学的悪性：43～52% 最大径の中央値 13.7～15.9 mm 再発例 顔面の H ゾーンから発生：79～83% 病理学的悪性：48～60% 最大径の中央値 17.8～19.4 mm	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	通常の切除術 局所麻酔（2 例にも全身麻酔） 3 mm マージンをつけて切除し、直接縫合 断端陽性ではさらに 3 mm マージンをつけて切除 Mohs 手術 3 mm マージンをつけて切除 凍結標本を作製し、全ての断端を評価し、陰性になるまで手技を続ける	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	費用	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）

	主な結果	初回治療例の局所再発率 3%（通常切除）vs. 2%（Mohs 手術）(95%CI -2.5%-3.7%) 再発例の局所再発率 3%（通常切除）vs. 0%（Mohs 手術）(95%CI -2.0%-5.0%) 以上より、統計学的有意差なし 手術にかかる経費は Mohs 手術の方が高い
	結論	初回治療例および再発例とも、通常切除術と Mohs 手術では局所制御率に関し有意差はなかった。再発例における Mohs 手術の成績は良好であったが、統計学的有意差はなかった。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間　直人
	レビューワーコメント	術式を比較した数少ないランダム化比較試験 Mohs 手術が通常手術に比べ 6.5%良好となると予測し立てられた試験ではあるが、その有用性は証明されなかった。 レベル II

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**A systematic review of treatment modalities for primary basal cell carcinomas**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（1）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	ＢＣＣＣＱ１１－５	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	10522664	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	135	
	号		
	ページ	1177-83	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（1）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（2）	
	発行年月	1999 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Thissen MR	Maastricht Medical Center
	その他著者 1	Neumann MH	同上
	その他著者 2	Schouten LJ	Comprehensive Cancer Center
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	基底細胞癌の治療法別再発率を検討する
	データソース	MEDLINE、EMBASE、CANCERLIT
	研究の選択	基底細胞癌に対し、通常の切除術、Mohs 手術、Cryosurgery、Electrodesiccation、放射線療法、Immunotherapy、Photodynamic therapy を施行した研究を選択。
	データ抽出	298 文献は抽出。言語、病理学的確定がついていない症例が含まれる、遡及的研究、経過観察が 5 年未満、50 例未満の報告、レビュー、重複投稿、整容性の報告の論文を除外し、18 文献が残った。
	主な結果	再発率 Mohs 手術：1.1%、通常の切除：5.3%、Cryosurgery：4.3%、Curettage および Desiccation：13.2%、放射線療法：7.4%、Immunotherapy：21.4%
	結論	治療法別の再発率の違いは報告の仕方（解析の仕方）が異なるため単純にはできない。Mohs 手術は大きな腫瘍、危険領域に発生した morphea-type の腫瘍には用いるべきである。結節性や表在性の小さな腫瘍では、通常切除術が用いられるべきである。他の治療法は手術が適応とならない症例に用いる。Immunotherapy と photodynamic therapy は研究段階の治療である。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	鹿間　直人
	レビューワーコメント	基底細胞癌の治療法別に再発率を検討した貴重なデータ レベル Ⅰ

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Studies on Radiation Therapy for Carcinoma of the Skin**	
	論文の日本語タイトル	皮膚癌の放射線治療成績に関する検討	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （1）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ11-10	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	1987081960	
	雑誌名	日本医学放射線学会誌	
	雑誌 ID		
	巻	46	
	号	8	
	ページ	1048-56	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （1）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （1）	
	発行年月	1986 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	岡崎 篤	群馬大学
	その他著者 1	高橋 青	同上
	その他著者 2	伊藤 潤	同上
	その他著者 3	池田 一	同上
	その他著者 4	中村 勇司	同上
	その他著者 5	竹内 美穂	同上
	その他著者 6	新部 英男	同上
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	皮膚原発基底細胞癌および扁平上皮癌の放射線治療成績を検討する。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	群馬大学	
	対象者	１９７０－１９８３年に治療した皮膚癌１１２例 基底細胞癌 16 例 （15 例が顔面原発） T1：8 例、T2：5、T3：1、T4：2 扁平上皮癌 96 例 （顔面：42 例、陰茎：30、外陰：9、他） T1：22 例、T2：31、T3：31、T4：12	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （1）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （14）	
	介入（要因曝露）	基底細胞癌 放射線療法：8 例、手術＋放射線療法：8 例 扁平上皮癌 放射線療法：56 例、手術＋放射線療法：40 例 放射線療法 電子線照射(8～12MeV)またはコバルト、10MVX 線 1 回 6～7 Gy、週 2 回 （コバルト、X 線では 2 Gy/回で 50 Gy） 基底細胞癌：5～6 回、扁平上皮癌：7～8 回	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）

	主な結果	局所制御 基底細胞癌：81% 扁平上皮癌：61%（T1: 100%, T2: 58%, T3: 18%, T4: 0%） 手術後放射線療法施行(34 例)：全例制御 放射線療法後手術：50% 生存率：5 年生存率 73% リンパ節転移陰性例 86%、陽性例 34% 重篤な障害：2 例（眼瞼原発、開眼障害）
	結論	局所制御率は良好であり、有害事象も許容範囲内であった。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	後ろ向き研究ではあるが、日本から発表された貴重なデータ レベルⅠV

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Treatment of basal cell carcinoma of the skin with 5-fluorouracil (5-FU) ointment. A 10-year follow-up study**	
	論文の日本語タイトル	BCC に対する 5-FU の治療。10 年フォローアップ。	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ12-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID	437226	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatologica	
	雑誌 ID		
	巻	158	
	号	5	
	ページ	368-72	
	ISSN ナンバー	0011-9075	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1979	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Reymann F	Department of Dermatology, Finsen Institute, Copenhagen
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	BCC に対する curettage と 5-FU を組み合わせた治療。10 年フォローアップデータ。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	一施設皮膚科	
	対象者	1966－1968 年間　5-FU 軟膏で治療した 88 症例　95 個の BCC	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　3　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　2　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　14　）	
	介入（要因曝露）	Curettage & 5-FU 軟膏で治療を行い、その後対象症例を 1977-1978 年（10 年後）に再調査した。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	10 年後の再発率	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1966～1968 年に 5-FU 軟膏による治療を行い、その後 1 年に 1 回フォローされた。5 年後では 13.5%、10 年後では 56 個の BCC をもつ 56 症例中、12 例（21.4%）に再発がみられた。	
	結論	結節型 BCC の局所治療として 5-FU 軟膏の適応は疑問である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 10 年間にわたる長期結果が示されている論文である。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Tumors of the skin. XⅡ. Tbpical 5-fluorouracil for epidermal neoplasms**	
	論文の日本語タイトル	表皮病変に対する 5-FU 局所治療	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ12-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID	5110338	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	3	
	号	3	
	ページ	331-49	
	ISSN ナンバー	0022-4790	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1971	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Klein E	Department of Dermatology, Roswell Park Memorial Institute, Buffalo
	その他著者 1	Stoll HL Jr	
	その他著者 2	Milgrom H	
	その他著者 3	Helm F	
	その他著者 4	Walker MJ	
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	各種皮膚癌に対する 5-FU 軟膏の効果を検討	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	20 の medical center	
	対象者	500 患者、15000 病変が対象であるが、このうち nodular BCC が 32 例、multiple superficial BCC が 31 例含まれている。その他にも日光角化症や SCC の使用例も含まれる。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　3　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　14　）	
	介入（要因曝露）	5-FU 軟膏の外用治療	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	32 例の結節型 BCC：56%に腫瘍消失効果があったが、手術や放射線の 98%に比べれば低い治癒率である。 表在型は濃度を変えて治療を行ったところ、0.005～0.5%溶液では腫瘍の消失へいたらず、5～20%溶液なら 80%の腫瘍消失がみられた。	
	結論	各種の皮膚癌に対して 5-FU 外用は有用である。全身的な毒性や重篤な副次的作用は認めなかった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 多施設多数例の検討であり、5-FU 外用の評価としてエビデンスが高い。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌他、皮膚上皮系腫瘍	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Treatment of skin epitheliomas with 5-fluorouracil (5-FU) ointment. Influence of therapeutic design on recurrence of lesions**	
	論文の日本語タイトル	5-FU 軟膏による皮膚上皮腫の治療。再発病変に対する治療方法の影響	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ12-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	4919324	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatologica	
	雑誌 ID		
	巻	140	
	号		
	ページ	Suppl 1: 42-6	
	ISSN ナンバー	0011-9075	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1970	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ebner H	Second Department of Dermatology, Vienna University
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	5-FU 軟膏による皮膚上皮腫（BCC, SCC, ケラトアカントーマ、ボーエン病）の治療。再発病変に対する治療方法の影響	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	Vienna 大学皮膚科	
	対象者	皮膚上皮系腫瘍患者 55 例、97 病変 BCC は頭頚部 22 例、体幹部 53 例、四肢末端部 3 例が含まれる。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 2 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	5-FU 軟膏の閉鎖療法	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	5-FU 軟膏の効果判定	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	上皮系腫瘍 55 症例 97 病変に対して、5-FU 軟膏を用いて治療を行った（1 日 1 回閉鎖療法）。ここには BCC78 病変（顔面頚部 22 個、体幹 53 個、四肢末端 3 例）が含まれ、比較的良好な結果が得られた。	
	結論	閉鎖療法を行うことで、十分な浸透が期待できる。どれぐらいの期間この治療を行うべきかの基準は示していないが、ボーエン病で 16～18 日、BCC では約 4 週である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） まだ試験段階の論文であり、明確な使用基準が示されていない。また、長期間の結果も不明である。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**A pilot study to evaluate the treatment of basal cell carcinoma with 5-fluorouracil using phosphatidyl choline as a transepidermal carrier**	
	論文の日本語タイトル	経表皮キャリアーとして phosphatidyl choline を用い、5-FU による治療効果を評価するためのパイロットスタディ	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ12-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅱ ）	
	Pubmed ID	10759821	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatol Surg	
	雑誌 ID		
	巻	26	
	号	4	
	ページ	338-40	
	ISSN ナンバー	1076-0512	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Romagosa R	Department of Dermatology and Cutaneous Surgery, Unversity of Miami School of Medicine, and Department of Dermatology, Miami Veterans Affairs Medical Center, Miami, Florida
	その他著者 1	Saap L	
	その他著者 2	Givens M	
	その他著者 3	Salvarrey A	
	その他著者 4	He JL	
	その他著者 5	Hsia SL	
	その他著者 6	Taylor JR	

一次研究の 8 項目	目的	溶液として Phosphatidyl choline を用いた場合は 5-FU の浸透性が良くなり、ワセリン基材の 5-FU 軟膏を用いた場合と比較して効果が増強するかどうかを検証する。	
	研究デザイン	二重盲検ランダム化比較試験	
	セッティング	大学病院	
	対象者	13 症例の生検を含む 17 検体。表在型 BCC は含めず、最大径 0.7 cm 以下の腫瘍を対象とした。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 2 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	Cream A: 5% 5-FU in a phosphatidyl choline Cream B: 5% 5-FU in a petrolatum base いずれかの外用（2 回/ 日）を 4 週間行い、16 週目に組織学的検証を行った。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	16 週目の組織学的検証	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	16 週目の副次的作用	1.主要 2.副次 3.その他（ 3 ）
	3	16 週目の整容的効果	1.主要 2.副次 3.その他（ 3 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	Cream A: 5% 5-FU in a phosphatidyl choline 9/10(90%)の治癒率 Cream B: 5% 5-FU in a petrolatum base 4/7(57%)の治癒率 いずれも臨床的効果、副次的作用において有意な違いは認めず。 通常みられる副次的作用としての刺激感、紅斑、発赤、潰瘍は許容範囲であった。	
	結論	統計的有意差は認めなかったが、PC を基材とした 5-FU 溶液の短期的な有用性を提示した。	
	備考	実験的には局所投与を行うと、phosphatidyl choline が効果的に表皮を通過することが示されている。	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅱ ） 短期間での BCC（特に手術適応外のケース：多発例など）の治療手段となり得るが、さらに大規模な調査が必要と考える。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Effects of 5-fluorouracil (5-FU) ointment on normal and diseased skin. Histological findings and deep action**	
	論文の日本語タイトル	正常および病的な皮膚に対する 5-FU の効果。組織学的変化と深部の反応	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ12-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅴ ）	
	Pubmed ID	5471361	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatologica	
	雑誌 ID		
	巻	140	
	号		
	ページ	Suppl 1: 47-54	
	ISSN ナンバー	0011-9075	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1970	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Klostermann GF	Dermatology Clinic of the University Gottingen
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	組織学的見地から 5-FU 軟膏の効果を検討した	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	ゲッチンゲン大学	
	対象者	原発 BCC のうち 5-FU 軟膏で治療した 53 切片	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	5-FU 軟膏治療後の組織学的所見	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5-FU 軟膏使用後の組織学的変化	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	組織学的には最初に腫瘍細胞の浮腫性変化が表れ、後になって炎症性細胞の浸潤と悪性細胞の吸収が起きた。	
	結論	5-FU 局所投与の問題は浸透度の問題に帰結される。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅴ ） 組織学的に 5-FU 軟膏の効果を検討している。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Tendency of fluorouracil to conceal deep foci of invasive basal cell carcinoma**	
	論文の日本語タイトル	浸潤型 BCC においては 5-FU の治療により深部病変が隠される	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ12-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	686718	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	114	
	号	7	
	ページ	1021-2	
	ISSN ナンバー	0003-987X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1978	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mohs FE	University of Wisconsin Medical Center
	その他著者 1	Jones DL	Department of Dermatology, Midelfort Clinic
	その他著者 2	Bloom RF	University of Wisconsin Medical Center
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	浸潤型 BCC においては 5-FU の治療により深部病変が隠されてしまい、その後 chemosurgery を行って再度切除を行った。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	5-FU 軟膏で治療した 103 例の BCC 患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	再発が疑われた患者に Mohs surgery を施行	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	MMS での組織学的腫瘍残存の有無	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	5-FU 軟膏外用で治療を行い、その後再発が疑われた症例が Chemosurgery clinic へ紹介された。その 4 分の 1 は正常な表面を呈していたが、残りは潰瘍を形成していた。	
	結論	浸潤型の BCC に対しては、5-FU 軟膏による治療は行うべきではない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 具体例の提示はあるが、実際の再発率などのデータは示されていない。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Fluorouracil paste treatment of thin basal cell carcinoma**	
	論文の日本語タイトル	表在型 BCC に対する fluorouracil paste による治療	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	BCCCQ12-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅲ ）	
	Pubmed ID	3977335	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	121	
	号	2	
	ページ	207-13	
	ISSN ナンバー	0003-987	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1985	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Epstein E	Department of Dermatology, Unversity of California, Medical Center
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		

	目的	表在型 BCC に対する fluorouracil paste による治療	
	研究デザイン	非ランダム化比較試験	
	セッティング	カリフォルニア大学	
	対象者	Group A: 25%fluorouracil 単独使用例　44 例 Group B: Light curettage を加えて 25%fluorouracil 使用　244 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 2 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	25% fluorouracil 単独使用例と使用前に curettage を行う群を比較検討する。いずれも毎週ドレッシングを交換して、これを 3 週間行う。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5 年後の累積再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	整容的効果	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	1）25%fluorouracil 単独使用例では 5 年後の累積再発率 21% Light curettage を加えてから 25%fluorouracil 使用した場合は再発率が 6%であった。 2）A,B 両群ともに整容的には 80%以上の満足が得られた。	
	結論	表在型 BCC に対して、単独使用では十分満足な結果が得られず、light curettage を加えることで他の治療に劣らない治癒率が可能となる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅲ ） 5-FU の BCC の表面治療は有効であるが、浸潤傾向のあるタイプは適応ではないことを示した。	

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interventions for basal cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における介入研究	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	BCCCQ12-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	12804465	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cochrane Databases of systematic reviews	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	2	
	ページ	CD003412	
	ISSN ナンバー	1469-493X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bath FJ	The Cochrane Collaboration
	その他著者 1	Bong J	
	その他著者 2	Perkins W	
	その他著者 3	Williams HC	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

	目的	基底細胞癌に対する各治療法の有用性を検証する	
	データソース	Cochrane Database	
	研究の選択	基底細胞癌のランダム化比較試験	
	データ抽出	2 人のレビューアーが独立して選択した	
レビュー研究の 6 項目	主な結果	5-FU を用いたランダム化比較試験は 2 つのみである。 1）溶液として Phosphatidyl choline（PC）を用いた場合は 5-FU の浸透性が良くなり、ワセリン基材の 5-FU 軟膏を用いた場合と比較して効果が増強するかどうかを検証した Romagosa の論文： Cream A: 5% 5-FU in a phosphatidyl choline9/10(90%)の治癒率 Cream B: 5% 5-FU in a petrolatum base　4/7(57%)の治癒率 いずれも臨床的効果、副次的作用において有意な違いは認めず。 通常みられる副次的作用としての刺激感、紅斑、発赤、潰瘍は許容範囲であった。 2）基底細胞癌患者に 6 つのレジメンの 5-FU/epi gel を投与し、その効果・安全性について検討した Miller の論文： 組織学的には 91%（106/116）に腫瘍の完全消失を認めた。 臨床的には治療にともなう副次的作用は認めなかった。 最も有効なレジメンは、0.5ml 5-FU/epi gel 週 3 回を 2 週間行う方法であった。	
	結論	1）統計的有意差は認めなかったが、PC を基材とした 5-FU 溶液の有用性を提示した。 2）5-FU/epi gel を用いた BCC の治療は安全性と効果の点でも有用である。手術や他の非手術治療と比べても組織学的に腫瘍の完全消失が期待できる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅰ ） 5-FU 軟膏そのものではなく、溶液基材や gel 化基材を作成して、BCC に治療効果を認めている。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Nonsurgical treatment of basal cell carcinoma with intralesional 5-fluorouracil/epinephrine injectable gel**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の非手術的治療として、病変内に 5-FU/エピネフリンゲルを注入する方法	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ12-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅱ　）	
	Pubmed ID	8996264	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acd Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	36	
	号	1	
	ページ	72-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1997	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Miller BH	Clinical Research Center
	その他著者 1	Shavin JS	
	その他著者 2	Cognetta A	
	その他著者 3	Taylor RJ	Miami Veterans Administration Hospital
	その他著者 4	Salasche S	Unversity of Arizona Health Science Center
	その他著者 5	Korey A	Matrix Pharmaceutical Inc
	その他著者 6	Orenberg EK	Matrix Pharmaceutical Inc

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌患者に 6 つのレジメンの 5-FU/epi gel を投与し、その効果・安全性について検討する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	多施設共同	
	対象者	122 例の BCC 患者に対して、2 つの dose、4 つの投与スケヂュールを無作為に割り付ける。4～6 週間投与後 3 ヶ月間の観察期間をおいて、腫瘍を切除して組織学的に検討する。 ①臨床型：38 例の表在型、84 例の結節型 ②病変の部位：頭頚部 18 例、四肢末端 49 例、体幹部 55 例 ③病変の面積：平均 80mm2 ④大きさ；<50　29 例、50－99　47 例　100－199　41 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　3　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　14　）	
	介入（要因曝露）	5-FU/epi gel の病変内投与	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	2	耐容性	1.主要 2.副次 3.その他（　2　）
	3	安全性	1.主要 2.副次 3.その他（　2　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	主な結果	組織学的には 91%（106/116）に腫瘍の完全消失を認めた。 臨床的には治療にともなう副次的作用は認めなかった。 最も有効なレジメンは、0.5ml 5-FU/epi gel を週 3 回行う方法であった。	
	結論	5-FU/epi gel を用いた BCC の治療は安全性と効果の点でも有用である。手術や他の非手術治療と比べても組織学的に腫瘍の完全消失が期待できる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅱ　） 数少ないランダム化試験であり、非手術治療として有用であることが示されている。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Myocardial ischemia induced by topical use of 5-fluorouracil**	
	論文の日本語タイトル	5-FU の治療により誘発された虚血性心疾患	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ12-10	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅴ　）	
	Pubmed ID	7649677	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Cardiol	
	雑誌 ID		
	巻	49	
	号	3	
	ページ	282-3	
	ISSN ナンバー	0167-5273	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rozenman Y	Department of Cardiology, Hadassah University Hospital, Ein Kerem, Jerusalem
	その他著者 1	Gurewich J	
	その他著者 2	Gotsman MS	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	5-FU の治療により誘発された虚血性心疾患	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	大学病院（イスラエル）	
	対象者	前頭部 BCC1 例に対して 5-FU クリームを使用。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　3　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　2　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　5　）	
	介入（要因曝露）	前頭部 BCC に対して 5-FU クリームを使用.	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他（　3　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	主な結果	5-FU クリーム使用後 30 分後に狭心痛が出現し、2 時間余り持続した。再チャレンジテストでは舌下硝酸イソソルバイトを併用することで良好なコントロールを得た。ニトログリセリンパッチで予防処置を行うことで、再度 5-FU クリームの治療を継続できた。	
	結論		
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅴ　）	

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**A systematic review of treatment modalities for primary basal cell carcinomas**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （1）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ13-1	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	10522664	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	135	
	号	10	
	ページ	1177-83	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （1）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （2）	
	発行年月	1999 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Thissen MR	Maastricht Medical Center
	その他著者 1	Neumann MH	同上
	その他著者 2	Schouten LJ	Comprehensive Cancer Center
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	基底細胞癌の治療法別再発率を検討する
	データソース	MEDLINE、EMBASE、CANCERLIT
	研究の選択	基底細胞癌に対し、通常の切除術、Mohs 手術、Cryosurgery、Electrodesiccation、放射線療法、Immunotherapy、Photodynamic therapy を施行した研究を選択。
	データ抽出	298 文献は抽出。言語、病理学的確定がついていない症例が含まれる、遡及的研究、経過観察が 5 年未満、50 例未満の報告、レビュー、重複投稿、整容性の報告の論文を除外し、18 文献が残った。
	主な結果	再発率 Mohs 手術：1.1%、通常の切除：5.3%、Cryosurgery：4.3%、Curettage および Electrodesiccation：13.2%、放射線療法：7.4%、Immunotherapy：21.4%
	結論	報告の仕方（解析法）が異なるため、治療法別の再発率の違いを単純に比較できない。Mohs 手術は大きな腫瘍、危険領域に発生した morphea-type の腫瘍には用いるべきである。結節性や表在性の小さな腫瘍では、通常切除術が用いられるべきである。他の治療法は手術が適応とならない症例に用いる。Immunotherapy と photodynamic therapy は研究段階の治療である。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	砺井 洋一
	レビューワーコメント	基底細胞癌の治療法別に再発率を検討した貴重なデータ レベル Ⅰ

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Treatment of basal-cell carcinoma: comparison of radiotherapy and cryotherapy**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （1）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ13-2	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	3514075	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Radiol	
	雑誌 ID		
	巻	37	
	号	1	
	ページ	33-4	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （1）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （2）	
	発行年月	1986 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hall VL	Royal South Hants 病院
	その他著者 1	Leppard BJ	同上
	その他著者 2	McGill J	同上
	その他著者 3	Kesseler ME	同上
	その他著者 4	White JE	同上
	その他著者 5	Goodwin P	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌に対し放射線療法と cryotherapy のどちらが再発率が低いかを検証。	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Royal South Hants 病院	
	対象者	93 例の基底細胞癌 発生部位：顔面・鼻 70 例、眼瞼 9 例、体幹部 14 例 腫瘍径：1 cm 未満 38 例、1～2 cm 48 例、2 cm 超 7 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （3）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （22）	
	介入（要因曝露）	放射線療法 表在X線装置（130kV） 7 Gy x 5 回、6.5 Gy x 3 回、3.75 Gy x 10 回 Cryotherapy -25 度～-30 度で 1 分間／1 回、2 回／病変	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所再発率	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	整容性	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	再発 放射線療法 4%、凍結療法 39% 整容性 放射線療法 スコア 1.35、凍結療法 1.43（有意差なし） その他、痛み、出血、浸出液などは両者に差なし	
	結論	基底細胞癌では凍結療法に比べ放射線療法の再発率が低い。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一
	レビューワーコメント	この試験では凍結療法と放射線療法を比較しており、やや違和感あり、1986 年の報告であり、現状にはそぐわない点も多い。凍結療法に関しても現在頻用される治療法とは言えない。登録症例数の設定の根拠や 95%信頼区間も示されていない。Intention-to-treat での解析もされていない。ランダム化比較試験の中では質の低いものと判断せざるを得ない。 レベル II

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	基底細胞癌
	タイプ	医学専門情報
タイトル情報	論文の英語タイトル	Evidence-based review of the use of cryosurgery in treatment of basal cell carcinoma.
	論文の日本語タイトル	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ13-3
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）
	Pubmed ID	12786697
	医中誌 ID	
	雑誌名	Dermatol Surg
	雑誌 ID	
	巻	29
	号	6
	ページ	566-71
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）
	発行年月	2003

		氏名	所属機関
著者情報	筆頭著者	Kokoszka A	St. Luke's-Roosevelt 病院
	その他著者 1	Scheinfeld N	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	基底細胞癌に対する凍結療法をシステマティックレビューする	
	データソース	MEDLINE, EMBASE, CancerLit, Cochrane Databse	
	研究の選択	基底細胞癌に対する再発率、整容的結果について記述したもの他の皮膚癌を含めたものは除外	
	データ抽出	13 の非対称研究と 4 の他の治療法とのランダム化試験	
	主な結果	症例蓄積研究が多く、エビデンスのレベルは低かった。ほとんどの報告が結節型、表在型で 2cm 以下と低リスクの症例を選んでいるものの、再発率は 10%以下と良好な結果を示していた。整容的には手術療法が優るとの報告が 1 報あったが、凍結療法で良好との報告が多かった。	
	結論	凍結療法の局所再発率は 10%以下と報告されているが、その評価は多くは臨床的な評価であり（病理学的検討なし）、また 1 年という観察期間の短いものもあり、注意を要する。整容的には多くの報告者が良好としている。	
	備考		
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	師井　洋一	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅰ ） 凍結療法のシステマティックレビューである。報告者の多くが、結節型および表在型の基底細胞癌を対象としているので、これらの低リスク症例には安価で簡便な凍結療法は基底細胞癌の治療として有用である。また、2 回の凍結サイクルが推奨される。しかし、予後不良な浸潤型に対してのエビデンスはない。	

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interventions for basal cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （1）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ13-4	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	12804465	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cochrane Database Syst Rev.	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	2	
	ページ	CD003412	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （1）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （2）	
	発行年月	2003年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bath-Hextall FJ	The Cochrane Collaboration
	その他著者 1	Bong J	同上
	その他著者 2	Perkins W	同上
	その他著者 3	Williams HC	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	基底細胞癌の治療法をシステマティックレビューする
	データソース	Cochrane Database
	研究の選択	病理学的確定診断がついた成人の原発性ＢＣＣ報告
	データ抽出	報告の抽出は２人の独立したレビューアーにより行った
	主な結果	凍結療法は便利で安価（手術との局所再発率に差なし） オッズ比：0.23 (0.01-6.78) 放射線治療と凍結療法で１年の局所制御率は照射が有意に良好 オッズ比：14.80 (3.17-69)
	結論	多くの試験はリスクの低い症例を対象とした報告であるが、手術と放射線治療が最も有効であり、再発率が低い。特に手術による局所制御率はより高い。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井 洋一
	レビューワーコメント	コクランレビューで信頼度は高い。凍結療法が手術療法と局所再発率に差がないという報告のある一方、放射線治療との比較では優位に劣るとされている。 レベル Ⅰ

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	基底細胞癌
	タイプ	医学専門情報
タイトル情報	論文の英語タイトル	Cosmetic results of cryosurgery versus surgical excision for primary uncomplicated basal cell carcinomas of the head and neck.
	論文の日本語タイトル	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ13-5
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）
	Pubmed ID	10940063
	医中誌 ID	
	雑誌名	Dermatol Surg.
	雑誌 ID	
	巻	26
	号	8
	ページ	759-64
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）
	発行年月	2000

		氏名	所属機関
著者情報	筆頭著者	Thissen MR	Maastricht 大学
	その他著者 1	Nieman FH	同上
	その他著者 2	Ideler AH	Cathlina 病院
	その他著者 3	Berretty PJ	同上
	その他著者 4	Neumann HA	Maastricht 大学
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	頭頸部基底細胞癌の手術療法と凍結療法で整容的にはどちらが優れるか	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Maastricht 大学	
	対象者	96 例の初発頭頸部基底細胞癌（結節型または表在型）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別ｾｻﾞ （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別ｾｻﾞ （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別ｾｻﾞ （ 15 ）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他 （ ）
	主な結果	手術療法（48 例、結節型 6 例表在型 42 例） 凍結療法（48 例、結節型 8 例表在型 40 例） 臨床的専門家は手術療法は凍結療法より整容的に優れると回答。 1 年後の臨床的再発率では手術０%、凍結 6.25%：有意差なし	

	結論	一般的に手術療法の方が凍結療法より整容的にすぐれている。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II） 整容面に焦点を当てた研究ではあるが再発率でも手術療法が優れていることを示している。整容面では、臨床専門家（皮膚科医、皮膚科看護師、形成外科医）の評価よりも、美容専門家や患者の評価（有意差なし）がより重要な印象がある。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Photodynamic therapy vs. cryosurgery of basal cell carcinomas: results of a phase III clinical trial.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	BCCCQ13-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）	
	Pubmed ID	8011500	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol.	
	雑誌 ID		
	巻	144	
	号	4	
	ページ	832-40.	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2001	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Wang I	Lund 大学
	その他著者 1	Bendsoe N	同上
	その他著者 2	Klinteberg CA	同上
	その他著者 3	Enejder AM	同上
	その他著者 4	Andersson-Engels S	同上
	その他著者 5	Svanberg S	同上
	その他著者 6	Svanberg K	同上
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌に対する凍結療法と PDT の比較	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Lund 大学	
	対象者	非モルフェア型基底細胞癌 88 例（44 例女性、44 例男性） 54%躯幹、28%頭頸部、11%下肢、7%上肢	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(15)	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	凍結 41 例（結節 17 例、表在 24 例） PDT47 例（結節 22 例、表在 25 例） 3 ヶ月後腫瘍残存率：凍結＝3%＜PDT＝30%　→　追加治療 1 年後再発率（病理）：凍結＝15%・PDT＝25%　有意差なし 整容的には有意に PDT が優っていた	
	結論	PDT は凍結療法に匹敵する治療法であるが、1 回の凍結療法に比べ 2-3 回の治療を要する。治療後の創は早期に治癒し、整容的には凍結療法に優る。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II） 凍結療法の中では極めて質の高い研究。よくデザインされ、両者に病理型の偏りもなく、何より再発を病理学的に検討したのはこの研究のみ。整容面も質的評価をしている。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Cryosurgery in the treatment of basal cell carcinoma. Assessment of one and two freeze-thaw cycle schedules.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	BCCCQ13-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅱ ）	
	Pubmed ID	9246168	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatol Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	22	
	号	10	
	ページ	854-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1996	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mallon E	Oxford Radcliffe 病院
	その他著者 1	Dawber R	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌の凍結療法は1サイクルと2サイクルのいずれが有効か検討すること	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Oxford Radcliffe 病院	
	対象者	84 例の顔面基底細胞癌（1.5cm 以下、モルフェア型は除く）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 15 ）	
	介入（要因曝露）	30 秒 1 回または 30 秒 2 回の液体窒素による凍結	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	再発率	1.主要 2.副次 3.その他（　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1サイクル 48 例、2サイクル 36 例 臨床再発率：　20.6　%、　4.7　%	
	結論	1サイクルの凍結療法は2サイクルに比べ有意に再発率が上昇するため、2サイクルが推奨される。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II） 数少ないランダム化比較試験であり、貴重。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Treatment of basal cell epithelioma by curettage and electrodesiccation**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌に対する掻爬・電気凝固治療	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ14-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	6512037	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	11	
	号	5 Pt 1	
	ページ	808-14	
	ISSN ナンバー	0190-9622	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1984	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Spiller WF	Department of Dermatology, Baylor College of Medicine, and University of Texas Medical School
	その他著者 1	Spiller RF	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		

一次研究の８項目	目的	基底細胞癌に対する掻爬・電気凝固治療	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	テキサス大学	
	対象者	1976~1977 年の間に C & D で治療を行った BCC の 233 例のうち、最低 5 年以上フォローされている症例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	C&E 治療	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	整容的効果	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	233 例中 7 例に再発がみられたが、治癒率 97.0%であった。大きさと再発部位に関しては各々、 ① 2cm 以下の再発率：鼻 5.56%（2/36）、眉 20%（1/5） ② 1cm 以下：鼻 6.45%（2/31） ③ 1～2cm：眉 50%（1/2） ④ 2cm 以上：前額・頭頂部 20%（2/10）、耳 33.3%（2/6）であり、全体で 16%（4/25）であった。 腫瘍径が 2ｃm以下なら治癒率は 98.56%（208/233）であるが、鼻や鼻唇溝部に限ってはその再発率が上昇した。	
	結論	全体の治癒率は 97%(226/233)であったが、治療する BCC のサイズと部位により結果が異なる。腫瘍径が大きい再発病巣や、鼻・鼻唇溝部は再発しやすい。整容的には小さい病巣なら十分満足が得られた。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） Ｃ＆Ｅ治療の適応について明確に言及している。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Recurrence rates of treated basal cell carcinoma. Part 2: Curettage-electrodesiccation**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の再発率：第２報：掻爬と電気凝固	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ14-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1820764	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	17	
	号	9	
	ページ	720-6	
	ISSN ナンバー	0148-0812	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1991	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman MK	Department of Dermatology, New York University School of Medicine
	その他著者 1	Kopf AW	
	その他著者 2	Grin CM	
	その他著者 3	Bart RS	
	その他著者 4	Levenstein MJ	
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の８項目	目的	基底細胞癌に対する掻爬と電気凝固の有用性（再発に関与する因子）を評価する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	New York 大学 Skin and Cancer Unit	
	対象者	1955~1982 年に受診した原発 BCC（未治療例）に対して、掻爬と電気凝固を施行した 2314 症例が登録	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	掻爬と電気凝固	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	予後因子	1.主要 2.副次 3.その他（ 3 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	① 部位別の 5 年間の再発率は、1955～1982 年の 2314 例について 低リスク部位（頚部、体幹、四肢）：8.6% 中リスク部位（被髪頭部、前額、前、後耳介部、頬骨部）：12.9% 高リスク部位（鼻、鼻側部、鼻唇溝部、耳、頸、口囲、眼周囲）：17.5% ② 1973～1982 年の 521 例に関しては、大きさも加味すれば 低リスク部位：すべての直径で 5 年再発率が 3.3% 中リスク部位：直径 10 ㎜以下 5.3%、10 ㎜以上で 22.7% 高リスク部位：直径 6 ㎜以下 4.5%、6 ㎜以上で 17.6% ③ 患者の年齢、性、罹病期間は再発率に影響を与えなかった。	
	結論	解剖学的部位に関わらず直径 6 ㎜以下の BCC、大きい腫瘍なら解剖学的部位を選択すれば掻爬と電気凝固治療は有用である。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 我国では C&E は一般的ではないが、症例を選択して施行すれば有用性が高い。多数の症例解析であり、再発危険因子のデータとしても信頼度は高い。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Curettage and electrodesiccation in the treatment of midfacial basal cell epithelioma**	
	論文の日本語タイトル	顔面正中部の基底細胞上皮腫に対する掻爬・電気凝固治療	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	BCCCQ14-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	6853782	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	8	
	号	4	
	ページ	496-503	
	ISSN ナンバー	0190-9622	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1983	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Salasche SJ	Dermatology service, Department of Medicine, Brooke Army Medical Center
	その他著者 1	Colonel MC	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	高リスク部位である顔面正中部（鼻、鼻唇溝）の基底細胞上皮腫に対する掻爬・電気凝固治療	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Brooke Army Medical Center	
	対象者	100 例の BCC 患者　未治療で結節型ないし結節潰瘍型であり、発生から 2 年以内、直径 1cm 以下、前治療なしという条件を満たす。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	C&E 治療	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所の腫瘍残存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	高リスク部位である顔面正中部（鼻、鼻唇溝）の BCC に対して掻爬・電気凝固治療を行った場合、十分な治療を行ったにもかかわらず 30%に腫瘍の残存がみられ、一方その他の頭頸部では 12%にとどまった。 組織学的には有毛部では腫瘍が毛包に沿って下方に進展していることがあった。	
	結論	C&E 治療は、高リスク部位である鼻・鼻唇溝部位には行うべきではない。この部位では根治が難しく、整容的機能的障害を残すこともあり、むしろ MMS が推奨される。有毛部では取り残すことになるのでこれを行うべきではない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 厳選した症例に対して C&E 療法を行い、治療効果を判定してかつ残存腫瘍の組織学的検討加えているので、エビデンスレベルは高い。	